

小麦の銅・マンガン欠乏対策に！

効果発現促進材（銅・亜鉛）入り

マンキ子粒状T-21号



▲小麦の銅欠乏
(中央部が銅欠乏により枯れ上がりが遅く、不稔が多い)

▲銅欠乏小麦の穂部(不稔)

成 分

保証成分 (%)	効果発現促進材 (%)	
く 溶性マンガン	銅	亜鉛
C-MnO	Cuとして	Znとして
21. ⁰	2. ⁵⁶	1. ⁰⁰

*効果発現促進材として銅、亜鉛を表記する場合、肥料取締法上、元素単体で表示することになっています。
マンガンは保証成分ですので酸化物 (MnO) で表示しています。

荷姿：20kg紙袋

供給 ● JA

ホクレン

全農

マンキチ粒状T-21号

効果発現促進材(銅・亜鉛)入り

この肥料は畑作・園芸作物のマンガン、銅、亜鉛欠乏に有効です。
とくに秋まき小麦の銅、マンガン欠乏対策として効果が期待できます。

特長

- ★この肥料は鉱さいマンガン肥料に効果発現促進材として銅、亜鉛を配合した微量元素肥料です。
- ★この肥料のマンガンは 可溶性ですから、肥効が安定的に持続します。
- ★銅と亜鉛はガラス質の状態に含まれているため緩効的です。そのため、土壤中で徐々に溶けて生育期間中絶えず作物に供給されます。
- ★粒状のため、機械散布に適します。

使い方

★適用土壌(畑・野菜)……マンガン、銅、亜鉛が土壌診断基準値以下の土壌に施用してください。

基準	要素	易還元性マンガン (Mn)	可溶性銅 (Cu)	可溶性亜鉛 (Zn)
不足領域		50ppm以下	0.5ppm以下	2ppm以下
(土壌診断基準値)		(50~500ppm)	(0.5~8.0ppm)	(2~40ppm)

H.14年 北海道施肥ガイドより
*秋まき小麦におけるマンガンの施用指針として、交換性マンガンを 下限値:4ppm(但し、pH5.5~6.5の土壌) 上限値:10ppm程度
H.16年 指導参考事項

- ★基肥として全面全層に施用してください。
- ★標準施用量……… **10a 当り20kg**の施用を標準としてください。
- ★濃度上昇量(試算値)… 20kg/10a 全層施用による土壌中のマンガン、銅、亜鉛の濃度上昇の程度を試算しました。

施用量	要素	Mn濃度上昇量	Cu濃度上昇量	Zn濃度上昇量
20kg施用		31.0ppm	4.9ppm	1.9ppm

*土壌中のマンガン、銅、亜鉛の濃度上昇量は作土深15cm、土壌容積重を 0.7 で試算

銅の土壌中濃度は肥料20kgの施用で欠乏域から土壌診断基準値の適正領域(0.5~8.0ppm)に上昇します。マンガン、亜鉛も適正域に上昇します。

使用上の注意

- ★微量元素が含まれているので、土壌分析診断を定期的実施し、適正な施用に努めてください。
- ★詳しい使い方については、地区農業技術指導機関またはJAにご相談ください。



TOMATEC 株式会社
札幌営業所:札幌市中央区北4西4ニュー札幌ビル